人間社会学部／地域社会コース	職名	講師	氏名	福本　純子

１．教員紹介・主な研究分野

早稲田大学人間科学部卒業、早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、熊本大学大学院社会文化科学教育部博士後期課程を単位取得退学。下関市立大学経済学部特任教員（地域貢献担当）等を経て、2021 年に本学着任。

主な研究分野は、地域社会学、環境社会学、農村社会学。農山村、とくに中山間地域へのフィールドワークを中心に、地域住民の方々にお話を聴きながら研究を進めています。主な研究テーマは（1）再生可能エネルギーと（2）農山村の地域課題です。

（1）再生可能エネルギーの中でも特に小規模な水力発電に注目し、地域社会との関係について研究しています。たとえば、農山村に現存する小水力発電所の地域での運営方法や役割を分析することを通じて、持続可能な地域づくりについて探求しています。

（2）農山村の地域課題については、特に農業に関する課題（耕作放棄地、獣害、担い手問題など）に焦点をあて、日本の農村のあり方について考えています。

２．研究業績

①最近の著書・論文

＜著書＞

- 福本純子，2023,「コラム　小水力発電と地域社会（第 20 章エネルギーと環境）」環境社会学会編『環境社会学事典』丸善出版，549.
- 福本純子，2022,「4 水からみた農的世界（Ⅱ環境と農的世界――農的自然と農村の生活）」山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房，48-49.
- 福本純子，2022,「7 農的世界から生み出されるエネルギー(1)――小水力発電（Ⅱ環境と農的世界――農的自然と農村の生活）」山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房，54-55.
- 山本努・福本純子，2022,「9 福島原発事故後の大学生の原子力発電についての意識（Ⅱ環境と農的世界――農的自然と農村の生活）」山本努編『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房，58-61.
- 福本純子，2021,「社会学・農村社会学の研究動向」藤井和佐編『日本農村社会の行方―<都市－農村>を問い直す（年報村落社会研究 57 集）』農山漁村文化協会，233-245.
- 近藤祉秋・合原織部・福本純子，2021,「嗅ぎあう世界の狩猟と獣害――九州山地の事例から」近藤祉秋・吉田真理子編『食う、食われる、食いあうマルチスピーシーズ民族誌の思考』青土社，237-271.

＜論文＞

- 近藤祉秋・合原織部・福本純子，2022,「『ジビエ』化する獣肉――九州山地 A 村 B 地区における野生獣肉販売事業の事例から」『神戸大学大学院国際文化学研究所紀要』57：121-161.
- 松岡崇暢・本田恭子・福本純子，2021,「獣害対策に向けた小水力発電の導入が山口県下の農山村に与えた影響――農山村の持続と再生に寄与する地域づくりの発展」『宮崎大学地域資源創成学部紀要』4：59-69.

＜報告書＞

- 髙嵜浩平・福本純子編，2023,『田川市における農業の課題と実践――特産品・後継者・鳥獣被害の 3 つの視点から』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

- 山本努・福本純子,「若者（大学生）の原子力発電についての意識：研究ノート（続）」西日本社会学会第 79 回大会，オンライン，2021 年 5 月 23 日.
- 福本純子,「過疎農山村における社会的排除とムラの自律的対応――広島県庄原市 X 集落における稲作縮小の事例から」日本社会病理学会第 36 回大会，テーマセッション「若手・中堅にとっての社会病理学の可能性――現代の社会的排除を捉える方途」，神戸学院大学（オンライン），2021 年 3 月 13 日（招待講演・テーマセッション）.
- 山本努・福本純子,「若者（大学生）の原子力発電についての意識：研究ノート」西日本社会学会第 78 回大会，2020 年 5 月.

＜書評＞

- 福本純子，2022,「細谷昂著『日本の農村――農村社会学に見る東西南北』」『村落社会研究ジャーナル』57：31-32.

③過去の主要業績

- ＜著書＞福本純子，2018,「コミュニティが担う再生可能エネルギー――東広島市の農村小水力発電の事例から」鳥越皓之・足立重和・金菱清編『生活環境主義のコミュニティ分析――環境社会学のアプローチ』ミネルヴァ書房，483-502.
- ＜論文＞福本純子，2019,「生産基盤縮小にみる集落の自律的再編――広島県庄原市の中山間地域における稲作の縮小を事例として」『熊本大学社会文化研究』17：291-308.
- ＜学会発表＞Fukumoto,Junko，“Community-based Renewable Energy Structures in Industrialized Societies：A Case of Small Hydropower in Rural Community” The 14th World Congress of the International Rural Sociology Association（IRSA），Ryerson University，Toronto，Canada，August 2016.

３．外部研究資金

- 日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究(B)「ポスト農業社会の食・農・自然に視点をおいた農業社会学の構築」13,260,000 円，2020～2023 年度，研究分担者（研究代表者：牧野厚史・熊本大学）.

４．受賞

５．所属学会

日本社会学会、環境社会学会、日本村落研究学会【理事・事務局（会計担当）】、西日本社会学会、日本社会分析学会、山口地域社会学会、日本社会病理学会

６．担当授業科目

地域社会学Ａ・2 単位・1 年・後期
社会調査の設計・2 単位・2 年・前期
社会調査実習Ⅰ・2 単位・2 年・前期
社会福祉調査法・2 単位・2 年・後期
社会調査実習Ⅱ・2 単位・2 年・後期
地域社会学Ｂ・2 単位・3 年・前期
地域社会分析法Ａ・2 単位・3 年・前期
公共社会学研究Ⅰ・2 単位・3 年・前期
卒業論文・6 単位・4 年・通年

７．社会貢献活動

2021 年 7 月～2022 年 11 月，行橋市総合計画審議会委員

８．学外講義・講演

・NHK 福岡放送局【ニュース 645 福岡】内「福チャン！」にて社会調査実習（福本純子グループ「田川地区における農業の課題と実践に関する調査」）の様子の紹介，2022 年 10 月 29 日.

９．附属研究所の活動等